



Memories of our Visit

～パサデナを感じて～

秦野や日本の良さについてしっかりと伝えることができ、ホストファミリーの方々は、必ず来てくれると言ってくれたので、その時は、自分が秦野を案内したいと思います。



堀口哲平 (高2)



佐々木美宇 (高1)

パサデナの方々の温かさの影で、アメリカが大好きになりました。ゲール会長がおっしゃっていたように、パサデナは私の第2の故郷だと心から思いました。



藏本果南 (高2)

一番楽しかったことは、ホームステイ先の家で、子どもたちと家の中を走り回ったり、スターウォーズごっこをしたりして、毎晩過ごしたことです。



トンプソン中学校では、僕たちも一緒に授業を受けました。1時間目はリーディングの授業でしたが、皆パソコンを使って授業を受けていてうらやましかったです。



霜田智星 (高2)

映画やゲームでしか見たことがない土地へ行き、日本では体験できないような貴重な5日間を過ごすことができ、行って良かったと思えました。



栢一真 (中2)



神田七海 (中1)

たくさんの思い出ができました。パサデナの皆様は、とても優しくかったです。またパサデナへ行きたいです。



古家ひろ美 (東小)

今回、またとない体験をさせていただいたことは、教師としての私にとってだけでなく、私の人生にも大きな影響を及ぼしてくれるものとなりました。

パサデナで出会った人々の温かい心、パサデナで見て、聞いて、肌で感じて学んだこと、すべてで胸がいっぱいになりました。



浅見美珠穂 (本町小)

観光地ではなく、学校やスーパーでの買い物、家庭料理作りや犬の散歩など、パサデナ市の地元の方々の生活を体験することができ、とても貴重な体験となりました。



根倉芽依 (末広小)



中里綾乃 (南小)

たくさんの方が歓迎とおもてなしをしてくださり、国をまたいだ繋がりを感じました。普段経験できないこと、見たことのない景色、人との出会いなど自分自身の糧となる訪問でした。



藤間宏幸 (市職員)

姉妹都市の交流事業の大切さ、そして、なによりも現地で食事、文化、人柄、環境等を五感で感じることで、自分自身の大きな財産になりました。

「個の力」を重視するために広報誌を持たず、必要な周知を各部署に任せているというパサデナ市の広報体制に刺激を受けました。



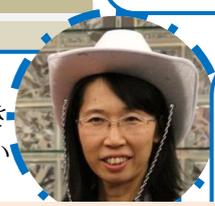
上村彰吾 (市職員)

一瞬一瞬が気付きや発見の連続で、自分の視野の狭さ、考えが固まってしまっていることを痛感しました。そして、言葉では言い尽くせないような素晴らしいことを学び、私にとって一生の輝く宝物となりました。



梶田和泉 (市職員)

これまで秦野とパサデナを結んできた大勢の人々の思いをこのような形で繋ぐ一端となれたこと、とても嬉しく思います。人と人とのふれあいには、国境や人種の違いは必要ないのですね。



安藤美千代 (市教委)

パサデナ姉妹都市協会の方々、細やかな準備をしてくださりました。地元の学校の先生や生徒たちは明るく元気に出迎えてくださり、初めて会うのにも拘わらず、とても温かな気持ちになりました。



佐藤美子 (市職員)